

大豆 除草剤一覧

1 使用上の注意

(1) 使用上の注意

ア 粒剤、細粒剤

- (ア) 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、適当な土壌水分の時に処理する。
- (イ) 散布ムラが生じやすいので、朝夕の無風時に処理するなど均一散布に努める。
- (ウ) 排水不良田や降雨（特に大雨）の前後には薬害のおそれがあるため使用しない。

イ 乳剤、水和剤

- (ア) 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、登録の範囲内で希釈水量を多めに散布する。
- (イ) イネ科雑草対象の生育期処理剤は、周囲の水稲にかからないよう注意する。
- (ウ) 散布器具は念入りに洗浄する。

ウ 液剤

- (ア) 少量散布の場合は、少量散布用のノズルを使用する。
- (イ) 播種後茎葉処理を行う場合は、大豆出芽前までになるべく早めに散布する。

エ 播種後土壌処理剤では、土塊が大きい場合は出芽障害をきたしやすく除草効果が劣るため、播種前の砕土・整地は丁寧に行う。

また、覆土が薄いと出芽抑制、生育抑制等の薬害を生じやすいため、2～3 cm 程度の覆土を行う。

(2) 登録内容は 2023 年 7 月 1 日現在。

(3) 本年度に新しく採用した薬剤は、太字で示した。

2 農薬登録状況の確認

農薬の登録内容については、下記のホームページ等で最新情報を確認する。

農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp>

3. 播種前および播種後出芽前茎葉処理

除草剤名 (登載年)	成分 (%)
サンダーボルト007 (2011)	グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0 ピラフルフェンエチル 0.16
タッチダウンiQ (2011)	グリホサートカリウム塩 43.0
パスタ液剤 (2008)	グルホシネート 18.5
ブリグロックSL (2008)	ジクワット 7.0 パラコート 5.0
ラウンドアップマックスロード (2009)	グリホサートカリウム塩 48.0

4. 播種前土壌混和

除草剤名 (登載年)	成分 (%)
トレファノサイド乳剤 (1982)	トリフルラリン 44.5

5. 播種後土壌処理

2023年7月1日

除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用 雑草
エコトップP乳剤 (2000)	ジメテナミドP 8.5 リニユロン 12.0	一年生雑草
エコトップP粒剤 (2006)	ジメテナミドP 1.0 リニユロン 1.4	一年生雑草
クリアターン乳剤 (2001)	ベンチオカーブ 50.0 ペンディメタリン 5.0 リニユロン 7.5	一年生雑草
クリアターン細粒剤F (1999)	ベンチオカーブ 8.0 ペンディメタリン 0.80 リニユロン 1.2	一年生雑草
コワーク乳剤 (1986)	トリフルラリン 14.0 プロメトリン 6.0	畑地一年生雑草
サターンバアロ乳剤 (1979)	ベンチオカーブ 50.0 プロメトリン 5.0	一年生雑草
サターンバアロ粒剤 (1982)	ベンチオカーブ 8.0 プロメトリン 0.80	一年生雑草
ダイロンゾル (2014)	DCMU 50.0	一年生雑草
デュアルゴールド (2013)	S-メトラクロール 83.7	一年生雑草
トレファノサイド乳剤 (1982)	トリフルラリン 44.5	畑地一年生雑草(ツユクサ、カヤツグサ、キク、アブらな科を除く)
トレファノサイド粒剤2.5 (1982)	トリフルラリン 2.5	畑地一年生雑草(ツユクサ、カヤツグサ、キク、アブらな科を除く)
フィールドスターP乳剤 (2015)	ジメテナミドP 64.0	一年生雑草(アカサ科・アブらな科・クダマ科を除く)
フルミオWDG (2018)	フルミオキサジン 50.0	一年生広葉雑草
プロールプラス乳剤 (2016)	ジメテナミドP 6.7 ペンディメタリン 6.5 リニユロン 11.4	一年生雑草
ラクサー乳剤 (2010)	アラクロール 30.0 リニユロン 12.0	一年生雑草
ラクサー粒剤 (2009)	アラクロール 4.0 リニユロン 1.04	一年生雑草
ラッソー乳剤 (1997)	アラクロール 43.0	一年生雑草
ワンクロスWG (2019)	フルアジホップP 7.0 リニユロン 30.0	一年生雑草

5. 生育期処理（全面処理）

2023年7月1日現在

除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用 雑 草	使用上の注意
アタックショット乳剤 (2020)	フルチアセットメチル 2.0	一年生広葉雑草	1. 詳細はIX. 2. (3) 選択性除草剤による全面処理を参照。
セレクト乳剤 (2002)	クレトジム 23.0	一年生イネ科雑草	
大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩） (2007)	ペンタゾンナトリウム塩 40.0	一年生雑草(イネ科を除く)	1. 詳細はIX. 2. (3) 選択性除草剤による全面処理を参照。
ナブ乳剤 (1991)	セトキシジム 20.0	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	
パワーガイザー液剤 (2020)	イマザモックスアンモニウム塩 0.85	一年生広葉雑草	1. 処理後に黄化等が発生することがあるが、回復は早く生育に影響はない。 2. 帰化アサガオ類が多発している場合は、IX. 2. (3) 選択性除草剤による全面処理を参照し防除する。 3. 前処理剤として土壌処理剤を使用する。
ポルトフロアブル (2008)	キザロホップエチル 7.0	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	1. 7葉以上の雑草には効果が劣る場合があるので、登録の範囲内で早めに使用する。
ワンサイドP乳剤 (1983)	フルアジホップP 17.5	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く) シバノキ レッドトップ	

6. 生育期処理（畦間雑草茎葉処理）

除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用 雑 草	使用上の注意
ザクサ液剤 (2014)	グルホシネートPナトリウム塩 11.5	一年生雑草	1. 大豆にかからないように注意して散布する。
バスタ液剤 (2014)	グリホシネート 18.5	一年生雑草	1. 株間処理の登録がある。 2. 噴口はできるだけ低くして、本葉にかからないように散布する。
ラウンドアップマックスロード (2015)	グリホサートカリウム塩 48.0	一年生雑草	1. 畦間処理の登録がある。 2. 大豆にかからないように注意して散布する。 3. 5～10Lの少量散布する場合は専用のノズルを使用する。
ロックス (2010)	リニュロン 50.0	一年生雑草	1. 大豆にできるだけかからないよう畦間・株間処理する。 2. 大豆にかかると葉害（黄化・落葉）を生ずる。 3. イネ科雑草には効果が劣る。

7. 薬剤の特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	効果の発現状況	適用草種	持続効果	土壌中の移動
アラクロール	アセトアニリド系	幼芽、幼根	移行性	タンパク合成阻害	雑草の発生が抑制される	ノビエ、メヒシバ、カヤツリグサ科	中～長	小
イマザモックスアンモニウム塩	イマザリリン系	茎葉	移行性	タンパク合成阻害	雑草の生育が停止し枯死に至る	一年生広葉雑草	短	極小
キサロホップエチル	フェノキシ酸系	茎葉	移行性	脂肪酸合成阻害	生長点が特異的に壊死し、株全体が萎縮しながら枯死する	イネ科(スズメノカタギを除く)	短	極小
クレジム	シクロヘキサジノン系	茎葉、根	移行性	脂肪酸合成阻害	生長点への作用による生育停止、葉身退色	イネ科	短	—
ジメナミド	酸アミド系	幼芽、幼根	移行性	タンパク合成阻害	雑草の発生が抑制される	イネ科、カヤツリグサ科>広葉	長	小
セトキシジム	シクロヘキサジノン系	茎葉、根	移行性	脂肪酸合成阻害	生長点への作用による生育停止、葉身退色	イネ科	短	大
トリフルリン	ジニトロアニリン系	幼芽、幼根	移行性	タンパク合成阻害	雑草の発生が抑制される	ノビエ、メヒシバ	長	極小
フルアシホップブチル	フェノキシ酸系	茎葉、根	移行性	細胞分裂阻害	生長点が特異的に壊死し、株全体が萎縮しながら枯死する	ノビエ、メヒシバ	中～長	小
フルチアセトメチル	—	茎葉	移行性	光要求型	葉部が黄化・褐変し枯死する	一年生広葉雑草	短	—
フルミオキサジン	—	茎葉、幼芽	—	非ホルモン接触型・光要求型	ネロシ等の症状が現れ、枯死する	一年生広葉雑草	中～長	小
プロメトリン	トリアジン系	茎葉、根	移行性	光合成阻害	葉色が黄色化して生長を停止し、徐々に消えるように枯死する	カヤツリグサ科、タデ科、その他広葉	長	小～中
ペンタゾン	ダイアジン系	茎葉、根	移行性	光合成阻害	葉部が黄化・褐変し枯死する	一年生広葉雑草	長	大
ベンチオカーブ	チカーバメイト系	根、茎葉、幼芽	移行性	タンパク合成阻害	種子の発芽抑制や生育が抑制されて、葉が奇形になり枯死する	ノビエ、メヒシバ、カヤツリグサ科、タデ科、その他広葉	長	小
ペンテイメタリン	ジニトロアニリン系	幼芽、幼根	移行性	細胞分裂阻害	雑草の発生が抑制される	ノビエ、メヒシバ	長	小
メトラクロール S-メトラクロール	アセトアニリド系	幼芽	移行性	タンパク合成阻害	雑草の発生が抑制される	ノビエ、メヒシバ、カヤツリグサ科	長	小
リニユロン	尿素系	根、茎葉	移行性	光合成阻害	雑草発生後に徐々に枯死する	広葉>イネ科	中	中～小